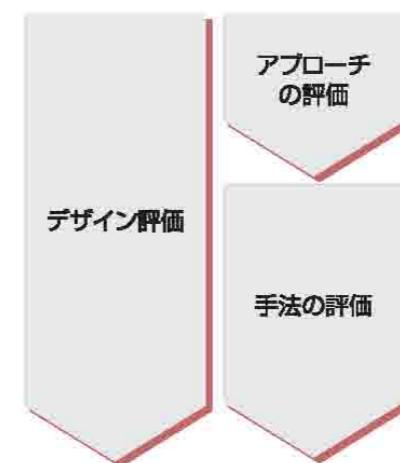


景観デザインふり返りシート



景観デザインふり返りシート	80
1 景観デザインふり返りシート part I:アプローチシート	82
2 景観デザインふり返りシート part II:手法シート		84
(1) 各施設共通	84
(2) 道路	85
(3) 公園・緑地	86
(4) 水辺・河川	87
(5) 橋りょう	88
(6) 公共建築物	89

景観デザインふり返りシート

段階ごとに評価をしましょう

企画構想段階から設計段階まで評価する

事業が魅力ある景観を形成するかどうか、企画構想、基本計画、基本設計、実施設計の各段階で評価していきましょう。景観やデザインの評価は、定量的あるいは客觀性をもって評価することが難しいと言われていますが、各段階で繰り返し景観デザインのプロセスをふり返ることで、その評価は普遍的なものとして多くの人に受け入れられるものとなります。それが都市の景観の質を高め、都市文化の形成に貢献するのです。重要なのは、各段階で時代の流れや市民ニーズを的確に判断し、柔軟な姿勢で事業内容を見直し検討することです。

運営管理段階で評価する

今ある公共施設等が市民にどのような評価を受けているかを把握し、事業者や管理者はその評価を真摯に受け止め、運営や改修や改築の時期に役立てることで、より満足度の高い施設づくりが可能になります。このことは、地域における景観形成の意識や景観デザインに対する市民理解の向上にもつながります。

「ふり返りシート」を活用しましょう

適切な景観デザインができたかを、景観デザインふり返りシート(アプローチシートと手法シート)を用いて評価します。シートは標準的な項目であって、施設の内容や地域の状況に応じて必要な項目を追加してください。また、事業部局が必要に応じて専門家などを交えた景観デザインを評価する組織や、市民を交えた懇談会などを設け、デザインを評価することも有効です。

STEP1:自己評価(必須)

アプローチシート、手法シートに記入が必要です

STEP2:他者評価(必須。部署内または関係部局にも評価してもらう)

STEP3:専門家の評価(施設の規模や内容などに応じて行う)

STEP4:市民の評価(施設の規模や内容などに応じて行う)

第5章 ●デザイン評価編 景観デザインふり返りシート

2 景観デザインふり返りシート partII:手法シート

1 景観デザインふり返りシート partI: アプローチシート		2 景観デザインふり返りシート partII: 手法シート	
<p>【調査マップのまとめ】</p> <p>歴史資源調査マップ 自然資源調査マップ 景観デザイン調査マップ くらしの風景調査マップ の4つの調査マップを整理します。</p> <p>*第2章は読み進みましたか?</p> <p>*図面や資料室に足を運んでみましたか?</p> <p>*取り扱いの場や町川に目を向けてみましょう</p> <p>具体的に配慮した景観デザインについてそのコンセプトを図や文章で整理し、さらに平面図や立面図、配置図で表現してください。</p>		<p>(2) 道路</p> <p>「地」の道路か 「図」の道路か</p> <p>「地」の道路 以下の項目を確認してください。</p> <p>道路の形 地形を生んだ道路形状とする 形状の変遷を行う場合は自然に配置する 大きやすい面構成とする 樹木による道側景観を演出する 快適なデザインの横断歩道とする</p> <p>道路の線 並木により清潔感のある道筋をつくる 沿道土地利用を踏まえて緑を配置する 樹によくさわぎのしきや地属性を演出する 手筋を演出する樹木や灌木を選択する シンボル樹木や並木などを保存する</p> <p>歩道の舗装 歩きやすい舗装材を選定する 場所にふさわしい創設デザインとする</p> <p>道路付属物 電柱・電線などの地中化を推進する 市町のセンター・ポールなどを進化する 信号・標識などを一骨にデザインする 標識などを統合する 街灯・看板などのある表現要素を演出する 構造物はシンプルなデザインとする</p> <p>改修 住民の愛着のある樹木などを保存する</p> <p>配慮事項</p> <p>チェック項目はまだ他にもたくさん考えられます。施設内容や規模、地域の状況に応じて必要な項目を追加してください。</p> <p>デザインする上でどのような配慮を行ったか、またその理由やコンセプトは何かを記入してください。</p>	

1 景観デザインふり返りシート partI : アプローチシート



【調査マップのまとめ】

【配慮項目のチェック】		昌葉	【配慮した事柄】(配慮できなかった場合はその理由を明記)
「さくら」から読み解く	歴史的特徴を捉える□□ 季節的特徴を捉える□□ 地形的特徴を捉える□□ まちづくりの特徴を捉える□□ ※第2章は読んでみましたか?		
歴史的背景から読み解く	地域の歴史的資源を整理する□□ 景観、土地、空間の移り変わりを整理する□□ 歴史的資源からモチーフを見つける□□ 自然環境の変遷を知る□□ 風景の変化を知る□□ くらしの歴史を知る□□ ※図書館や資料室に足を運んでみましたか?		
自然環境から読み解く	広域、中域、狭域の視点で自然環境要素を整理する□□ 土地本来の性質を知る□□ 環境要素の連続性を把握する□□ 緑の分布などを把握する□□ 北国特有の色の見え方を知る□□ ※周りの緑や河川に目を向けてみましょう		
景観特性から読み解く	周辺の景観構成要素を整理する□□ 遠景、中景、近景の見え方を整理する□□ 俯瞰してみる□□ 周辺景観との関係性を考える□□ 見ると見られるの関係を生かす□□ ※計画地周辺を眺めてみましょう		
くわじの風景を読み解く	人口の変化、くらしのようすなど、住まう人を見る□□ 生活関連施設や公園など、住まう環境を見る□□ ハレとケのようすを整理する□□ お祭りなどの風景を見る□□ 子育てイベントなどの風景を見る□□ 文化的な取り組みを見る□□ 人の流れ、地域のまとまりを見る□□ ※計画地周辺を歩いてみましょう		
利用者の目線で見る	相互理解を図り価値観を共有する□□ 信頼関係を構築する□□ 合意形成により愛着心や誇りを醸成する□□ 市民の視点を取り入れることで質の高い景観デザインとする□□ 協働により景観形成の意識の向上を図る□□ 施設運営面に配慮する□□ 維持管理面に配慮する□□ ※みんなで話し合ってみましょう		

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

2 景観デザインふり返りシート partⅡ: 手法シート

(1) 各施設共通



公共施設等の機能やまちづくりにおける役割を把握する

- 計画する施設の機能を理解し、立地条件、周辺特性を把握する
- 上位計画や札幌市景観計画などを踏まえ施設の役割を把握する
- 必要に応じ市民参加を場を設ける

視点場からの見え方を検討する

- 展望台などの主要な視点場から遠景として、どのように見えるか検討する
- 周辺の視点場から近景・中景として、どのように見えるか検討する

時間の連続性を読み取る(歴史を調べる)

- 地域の成り立ち、歴史的な変遷を読み取り、施設に時間的なつながりを持たせる
- まちの将来動向などから地域の変化を予測する
- 歴史的な建造物等や樹木を保存する
- 地域の素材を生かす

自然を生かし生態系を保全する

- 変化に富んだ地形を生かす
- 水や緑のネットワークを形成し、多様な動植物が生息する自然環境を創出する
- 四季の変化が感じられる景観づくりを行う

ヒューマンスケールを取り入れる

- 大規模な施設は壁面の分節化や周辺の緑化などにより、ヒューマンスケールを取り入れる

ユニバーサルデザインを推進する

- 誰もが使いやすい施設とする
- 季節による環境の変化に対応させる
- 防災・防犯を考慮した安全・安心な施設づくりを行う

「札幌の景観色70色」を色彩計画の基調として活用する

- 札幌特有の色の見え方に留意する
- 周囲からの見え方を十分に検討する
- 素材や方角によって色の見え方が変わることに配慮する
- その土地の自然環境に見られる色に類似する色彩を使うことを検討する
- ベースカラーとアクセントカラーの配色バランスを十分検討する

事業者間を調整し、デザインの連續を図る

- 隣接する同種の施設が、ちぐはぐにならないよう調整を行う
- 違う種類の施設が隣接する部分は、早い段階で関係間の調整を行い、共通の方向性を持つ

計画的な維持管理を行う

- 計画的な維持管理を行う
- 総合的な維持管理のあり方を考えた設計をする
- ガイドラインと照らし合わせ、改修時において改善することを念頭におく
- 後の維持管理をしやすくするため、既製品の活用や材料をストックする

公共施設エリアに設置する民間の施設も当該景観デザインの考え方を取り入れる

- 公共施設のエリア内の民間の施設も「みんなのもの」という意識を持ってデザインする
- 各施設に共通する考え方を読み解いてデザインに取り入れる

(2) 道路



「地」の道路か

-

「図」の道路か

-

「地」の道路

以下の項目を確認してください。

道路の形

- 昌 舞
地形を生かした道路線形とする
- 地形の改変を行う場合は自然に配慮する
- 歩きやすい断面構成とする
- 景観に影響の少ない高架構造物とする
- 軽快なデザインの横断歩道橋とする

道路の緑

- 並木により潤いのある連続した景観をつくる
- 沿道土地利用を踏まえて緑を配置する
- 緑により「さっぽろ」らしさや地域性を演出する
- 季節を演出する樹木や草花を選択する
- シンボル樹木や並木などを保存する

歩道の舗装

- 歩きやすい舗装材を選定する
- 場所にふさわしい落ち着いた舗装デザインとする

道路付属物

- 電柱・電柱などの地中化を推進する
- 市電のセンターポール化を推進する
- 信号・標識などは一体的にデザインする
- 標識などを統合する
- 街灯は温かみのある夜間景観を演出するつくりとする
- 構造物はシンプルなデザインとする

改修

- 住民の愛着のある樹木などを保存する

配慮事項

配慮事項

2 景観デザインふり返りシート partⅡ：手法シート

(3) 公園・緑地



- 「地」の公園・緑地
 「図」の公園・緑地

「地」の公園・緑地のデザイン評価
以下の項目を確認してください。

個性あふれる公園 島嶼

- 計画段階で住民の要望・意見を生かす
 地形を生かす
 地域特性を表現する植栽や素材を活用する

公園の緑

- 四季を演出する緑を選定する
 落葉後の緑を確保する
 シンボル樹木や並木などを保存する
 ボリュームある樹木の育成が可能な計画とする
 花壇を設けるなど緑を有效地に活用する
 多様な生態系に配慮する

公園をかたちづくるもの

- 建築物は公園景観に馴染むデザインとする
 遊具は飽きのこないデザインとする
 工作物は周囲と調和するデザインとする
 園路は人にやさしい計画とする
 駐車場は公園景観との調和を図る
 法面、擁壁は自然に馴染むつくりとする

安全・安心

- 植栽や外灯は安全・安心に配慮して設置する

改修

- 住民の愛着のある樹木などを保存する

配慮事項

配慮事項

(4) 水辺・河川



- 「地」の水辺・河川か
 「図」の水辺・河川か

「地」の水辺・河川のデザイン評価
以下の項目を確認してください。

水辺・河川の形態 島嶼

- 自然豊かな河川景観をつくる
 緑化により魅力的な河川景観をつくる

水辺空間をかたちづくるもの

- 樹木などにより堤防景観を演出する
 高水敷は自然植生を基本とする
 護岸は自然なつくりとする

水辺・河川の緑

- 河畔林を保全する
 川らしさを演出する樹木を選択する
 シンボル樹木や並木などを保存する

工作物

- 水門、固定堰などは質の高いデザインとする
 堤は水辺への眺めを妨げない形態とする
 標識・案内板は統一したデザインとする

改修

- 住民の愛着のある河畔林や淀みを守る

配慮事項

配慮事項

2 景観デザインふり返りシート partⅡ：手法シート



(5) 橋りょう

- 『地』の橋りょうか □
『図』の橋りょうか □

『地』の橋りょうのデザイン評価
以下の項目を確認して下さい。

構造形式 島嶼
シンプルな構造体とする □□

橋りょうデザイン
すっきりとした軽やかなデザインとする □□
橋上空間は周囲と連続したシンプルな
デザインとする □□
周辺景観との調和の取れた色彩とする □□

改修
住民の愛着のある素材などを活用する □□

『図』の橋りょうのデザイン評価
『地』と合わせて以下の項目を確認してください。

構造形式 島嶼
構造美を持つ橋りょうとする □□
場所にふさわしい構造形式を選定する □□

地場産出の素材など場所にふさわしい
材料を選定する □□
さまざまな方向からの見え方を検証し
デザインする □□

橋りょうデザイン
全体のバランスを整える □□
橋上に視点場を設置する □□
ライトアップにより演出する □□

(6) 公共建築物

- 『地』の公共建築物か □
『図』の公共建築物か □

『地』の公共建築物のデザイン評価
以下の項目を確認してください。

地形 島嶼
地形を生かした計画を行う □□

街なみ
周辺建物と一緒に街なみを形成する □□
地域に開かれた空間を創出する □□
角地景観を演出する □□

建築デザイン
機能的で飽きのこないデザインとする □□
施設特性に応じたデザインとする □□
積雪寒冷気候に配慮したデザインとする □□
屋上設備が歩行者から見えないようにする □□

外部デザイン
緑の保全、育成を図る □□
施設特性に応じて効果的に緑を配置する □□
アプローチは歩きやすい仕上げとする □□
塀や柵は開放的なしつらえとする □□
ゆとりある堆雪スペースを確保する □□
駐車場は街なみに配慮する □□
温かみのある夜間景観を演出する □□
仮囲いは歩行者が楽しめる工夫をする □□

改修
住民の愛着のある樹木や外壁素材
などを保存する □□



(6) 公共建築物

- 『地』の公共建築物か □
『図』の公共建築物か □

『地』の公共建築物のデザイン評価
以下の項目を確認してください。

全市を対象とする施設 島嶼
札幌を代表する美しいデザインとする □□
外部空間を緑化し建築物の背景を整える □□
ライトアップにより美しい夜間景観を演出する □□

区レベルを対象とする施設
地域性を表現する素材などを採用する □□
向かいあう角地景観と協調したデザインとする □□
地域性を表現する樹木などを配置する □□
他施設との一体的な利用を図る □□

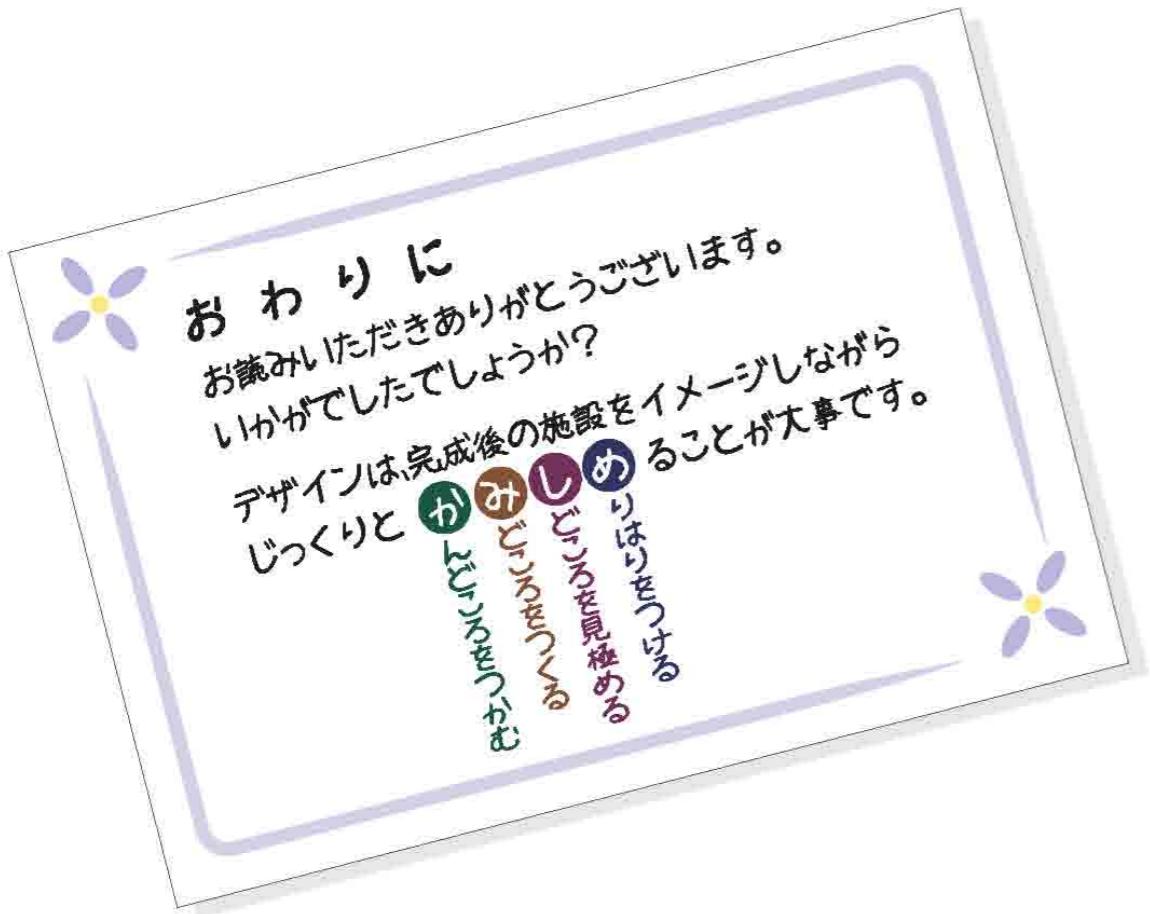
近隣を対象とする施設
住民が愛着の持てる施設とする □□

配慮事項

配慮事項

配慮事項

配慮事項



お問い合わせ先

- 都市景観に関すること
市民まちづくり局都市計画部地域計画課 011-211-2545
- 屋外広告物に関すること
建設局管理部道路管理課 011-211-2452
- 歴史に関すること
・札幌市写真ライブラリー 011-207-4445
・札幌市文化資料室 011-521-0205
・中央図書館(札幌資料室) 011-512-7320
- 風致地区及び緑保全創出地域の許可申請に関すること
環境局みどりの推進部みどりの管理課 011-211-2536
- 福祉のまちづくり条例に基づく建築物の事前協議に関すること
都市局建築指導部管理課 011-211-2859
- 環境アセスメント及び建築物環境配慮制度に関すること
環境局環境都市推進部環境マネジメント担当課 011-211-2879
- 建築確認申請に関すること
都市局建築指導部建築確認課 011-211-2846
- 工作物の確認申請に関すること
都市局建築指導部建築確認課(構造設備確認担当課) ... 011-211-2783